

要 約

PS501 は皮膚と大腸粘膜と免疫性を高め、アレルギー性炎症を抑制する。

枯草熱や接触性皮膚炎のようなアレルギー反応が、日本において最近50年間に急激に増加し、大きな問題になっているが、これらの原因は粘膜の免疫反応と神経-免疫ネットワークの著明な変化に起因していると想定されている。

本研究においては、大腸の炎症性腸疾患モデルである FITC-誘発性粘膜アレルギー (Th1 タイプ) およびオキサゾロン-誘発性粘膜アレルギー (Th2 タイプ) に及ぼす PS501 (経口投与) の影響を検討した結果、PS501 は FITC あるいはオキサゾロンを投与したマウスの大腸における DC (免疫応答に必須な細胞系の樹状細胞) および IgA (免疫グロブリン) 分泌の活性化を抑制し、大腸の炎症を抑制することを明らかにしている。